

読売

# 教育ネットワーク

社会はまるごと学校——  
すべての大人が先生です



命を預かる本当の厳しさを垣間見ることができた——。天野篤・順天堂大学医学部教授(右)の心臓手術を見学する生徒(左)(2・3面へ)

巻頭特集 高校生9人が順天堂大医療チームに密着

**心臓手術に立ち会い、医師の使命学ぶ** 2・3

**本屋に行こう@有楽町** 石田衣良さんら街の本屋の魅力語る 4・5

【出前授業】生野南小×江崎グリコ 六ツ美中部小×名古屋市立大 6・7

中学校英語弁論大会の入賞者が英国研修 8

「丸の内キッズジャンボリー」で親子ら新聞体験 9

お知らせ・短信 6・7 リレーエッセー「米コルビー大学」 10

2016.9

Vol.21



シンポジウム

# 本屋に行こう @有楽町

本は本屋で  
めくってから買う



街の本屋の魅力を見つめ直そうというシンポジウム「本屋に行こう@有楽町」が9月8日、東京都千代田区のみどりホールで開かれた。直木賞作家の石田衣良さんや出版関係者、知的書評合戦「ビブリオバトル」各大会の昨年度優勝者らが「めくらずに買いますか」をテーマに熱いトークを繰り広げた。(コーディネーターはスポーツジャーナリストの長田渚左さん)

## 書店数はピーク時の半分に

長田 街の本屋さんが次々と閉店に追い込まれています。星野 自分が出版業界に入った1989年に本屋は全国に2万3000軒ありましたが、今は1万軒ちよつとです。売り上げの半分以上を依存していた雑誌が売れなくなると、経営が立ち行かなくなっているのが原因です。

## 加藤 雑誌のマーケットは全盛期の4割くらいまで落ち込んでいます。反面、園芸や子育てなど専門性の高い雑誌は意外に売れていて、雑誌の売

場を広くして集客に成功している大型書店もあります。長田さんには申し訳ない状況です。

## 子どもが本屋に行けない

星野 もう一つ出てきたリスク要因が漫画です。最近、スマホで漫画を見ている方が多いでしょう。ここ数年、コミック誌の売り上げが落ちています。本屋の数はさらに減って、今の半分近くになってしまいかも知れません。

長田 ということは、本屋の数はピーク時の4分の1になってしまっているわけですね。石田 私の場合、小さい頃から

ら、家族経営の本屋や大型書店が近所にあり、神保町の古書店街もまるまる使えました。学校に行く回数より、本屋や図書館に行く回数の方が3倍多かった。高校生の頃は体力もあったので、4時間で上下巻の小説を読み切ったこともあります。

長田 子どもが本屋に行かない、行けない状況が生まれかけていると言えます。星野さんは、子どもが最初に本に触れるきっかけがネット書店でいいのか、と常々話されていますね。

星野 子どもは学校に上がるまで本に触れる機会があまりありません。学校に行くようになってからも、最近少し良くなったようですが、図書室は貧弱だし、古い本が多い。身近な場所に本屋があるというのは本場に大事なことだと思います。

河合 街の本屋さんが面白いと感じるようになったのは、



長田渚左さん スポーツジャーナリスト  
星野渉さん 文化通信編集長  
加藤晴之さん 講談社第一事業局次長  
石田衣良さん 作家



本屋の魅力について語り合ったトークセッション

実は最近なんです。本屋と言えば、駅前にある大型書店しか知りませんでした。大学生になって行動範囲が広がり、教授から「あそこの本屋は面白いよ」と教えられて初めて個人経営の本屋さんの奥深さに気づきました。

長田・石田 えー、びっくりですね。

星野 河合さんが紹介してくれた「なぜ本屋に行くか」アイデアが生まれるのか」の著者嶋浩一郎さんが言っています。「面白い本屋とは、要らない本を買わされる本屋だ」と。本を並べている人の手練手管があるんですね。10坪のお店だったら10坪以上の本は入らない。いかに選書していくのかというのが書店員の腕の見せどころで、そういう個性のあるお店はファンをつかんでいます。

高橋 私の場合、いわば背表紙セラピーで、本屋さんに入って背表紙の題名を眺めているだけで読んだような気になって癒されるんです。

星野 他業界から大型書店の経営者になった人が、ネット書店だけでしばらく本を買っていたら、自分の本棚が似たような本ばかりになっている

ことに気づいて愕然としたそうです。偶然、予期せぬ本に出会うことは今のネットの技術では難しい。

石田 書店の数が4分の1になったら、今までのシステムは通用しなくなります。本の世界には急激な変化が訪れる

と思いますが、皆さんはそのままひたすら読み続けてください。皆さんが生き残るのは間違いありません。本当に心配なのは、本も読まず、スマホのポータルサイトでまとめの芸能ニュースだけを見ている人たちです。



中村朱里さん 全国高校ビブリオバトル優勝者 早稲田大学1年  
河合さやかさん 全国大学ビブリオバトル優勝者 名古屋大学4年  
高橋康子さん 全国大会inこま優勝者 NPO法人読書普及協会理事

## 想定外の本と出会う

長田 想定外の本を買わされてしまうって、とても面白い感覚だと思います。

中村 私の友人は、いつも利用している本屋さんで「あな

## ビブリオバトル 有楽町決戦

トークセッションに先立って行われた「ビブリオバトル有楽町決戦」では、河合さん、中村さん、高橋さんの3人が本屋をテーマにした本を紹介、会場を沸かせた。中村さんが優勝した。(「有楽町決戦」の映像は、読売教育ネットワークのウェブサイトで公開中)



## 本屋の本がいい理由

河合さんの紹介本は「なぜ本屋に行くか」アイデアが生まれるのか(嶋浩一郎著、祥伝社新書)。お薦めの理由として、本屋で本を眺めることと、ネット検索の違いが分かりやすく書かれていることを挙げた。「この本を読むと、本屋に行った方がいい理由をうまく説明できるようになります」と述べた。

## 本に支えられて成長

中村さんは「本屋さんのダイアナ」(柚木麻子著、新潮社)を取り上げた。主人公の少女と親友が本に支えられながら成長していく物語。「本に救われた経験があったら、きっと共感できる。読み終わったら、『赤毛のアン』を買に行きたくなるはず」と語った。

## 書店側も自助努力

高橋さんのお薦め本は「本屋がなくなったら、困るじゃないか」(ブックオカ編、西日本新聞社)。書店、取り次ぎ、出版社の関係者が、出版不況の打開策を話し合った内容をまとめたもの。「本が売れないことをネット書店のせいにする前に、自分たちにも責任があるのではないかと、できることがあるのではないかと考えているところが素晴らしい」と語った。

# 「よく噛む」効用を指南

生野南小 × 江崎グリコ

毛利さん(正面)と道盛さん(右奥)による  
授業で、番号札でクイズに答える児童たち



大阪市立生野南小学校(久保敬校長)で9月3日、健康講習会が開かれ、読売教育ネットワークに参加している江崎グリコの毛利朝香さんと道盛久美子さんが「噛むって大切! 噛むとどんないいことがあるかな?」と題して出前授業を行った。全学年計144人が対象で、保護者にも公開された。

講師の2人は、大阪・道頓堀

の看板でも知られるランナーのマークを描いたTシャツ姿で登場。スナック菓子やアイスなどの商品を紹介した後、食事の好みや姿勢など10項目のアンケート「カミカミチェック」を通して、普段からよくかんで食べ物を食べているかをチェック。「ひみこのはがいで」(卑弥呼の歯がいで)という標語を使って、「ひみこ肥満予防」「みみ味覚の発達」など、かむ効用を分かりやすく解説した。

児童には、赤青2色のガムが2個ずつ配られ、集中力の向上を体験する暗算大会も行われた。最初はガムを30回かんだ後、次々とモニターに表示される5個の数字の合計を暗算。2度目は60回かんで行った。2度目は2ケタを含む10個の暗算だったが正解者が多く、答え合わせでは「よしっ」とガッツポーズを見せる児童もいた。

## 勉強やスポーツにプラス

6年の大石恵吾君は「かむことで集中力が上がるのは知っていたけど、今日はそれを実感できた」と大満足。5年の山本裕真君も「スポーツや健康、勉強にもいいことがあるとよく分かった」と振り返った。

最後にポッキーチョコレイトのテレビCMで人気の「シエア

ハビ・ダンス」の動画が紹介され、全員で音楽に合わせて両手を動かす踊りを楽しんだ。

締めくくりに毛利さんが「料理に歯ごたえのある野菜を入れたりして、普段の生活でかむ回数を増やすことを心がけて下さい」と呼びかけると、児童たちは「ありがとうございます」と元気があいつつした。

パピコが大好きという6年の水口心愛さんは「グリコの商品を取り上げた授業で、いろいろなことを教わったのが印象的だ



暗算大会で、ガムをかむ回数を指折り数える児童たち

「あった」と話し、5年の延山来未さんは「かむ大切さを妹にも伝えたい」と声を弾ませた。

保健担当の田中梓教諭は「ガムをかむなど、体を使った学習はしっかり記憶にとどまるだろう」と期待していた。

## 香港杯全日本大学「学生大使」募集

香港特別行政区政府 駐東京経済貿易代表部と、読売新聞社が発行する日刊英字紙The Japan Newsは、香港と日本のかけ橋となる「学生大使」を募集しています。

香港に関する4つのテーマ(ビジネス、ワーキングホリデー、映画、グルメ)について、香港と日本の交流を促進するアイデアを考えてください。応募締め切りは11月30日です。

来年1月21日に、東京・大手町KDDIホールで行われる最終審査会で、予備審査通過者15人が6分間の英語プレゼンテーションを行い、学生大使4人を選抜します。

学生大使に選ばれた4人は2週間の香港研修旅行に招待されるほか、希望者には在京の香港関連機関またはThe Japan Newsで、2週間のインターンシップの機会が与えられます。また、応募者全員に1000円の図書カードが贈られます。応募方法はウェブサイトをご覧ください。

→ <http://www.yomiuri.co.jp/adv/hongkongcup2016/>

【問い合わせ】 ☎03・3216・7112

メール: hongkongcup@yomiuri.com

News



薊教授(手前)の話に熱心に聞く児童たち

愛知県岡崎市の市立六ツ美中  
部小学校(加藤嘉一校長)で9  
月12日、名古屋市立大学の薊  
文教授が「呼吸」をテーマにし  
た出前授業を行った。授業を受  
けた6年生50人は、熱心にメモ  
を取ったり、活発に質問をした

りしていた。  
薊教授は冒頭、呼吸や植物の  
光合成の仕組みや意味などを説  
明。その後、バスケットボール  
チームのユニホームを身につけ  
、運動と酸素の関係について  
語った。100メートルなどの

# 「呼吸」テーマに環境学

六ツ美中部小 × 名古屋市立大

短距離走やスピードスケートは  
無酸素運動なので瞬発力が必要  
だが、エアロビクスなどの有酸  
素運動は持久力が必要だと解説  
した。

続いて、環境によって酸素の  
濃度がどう変わるかの説明に移  
ると、研究者用の白衣に着替え  
た。長野県の蝶ヶ岳や南米ボリ  
ビアのウユニ塩湖に高山病の調  
査で赴いたときの体験談を披  
露。平地から富士山、エベレス  
トまでの気圧の差と酸素の濃度  
の関係を図で示し、エベレスト  
の気圧は「死の領域と呼ばれて  
いる」と指摘した。ただ、人間  
の体も環境に順応するので、高  
地に暮らすエチオピアやケニア  
のマラソン選手は心肺機能が鍛  
えられていると話した。このほ  
か、鳥や水中動物の肺の仕組み  
や宇宙船の中の酸素濃度など、  
話題は多岐にわたった。

## 「マラソンの練習に生かせる」

児童たちは次々に手を挙げ、  
「高山病は低いところに行くど  
治りますか」「鍾乳洞内の酸素  
の濃度は外と違いますか」「走  
り幅跳びをしていますか、高山  
トレーニングをするとどうなり  
ますか」など、10人以上から質  
問が出た。

授業を受けた横井綾さん  
(11)は「二酸化炭素は多すぎ

## 「大学の實力2017」出版

偏差値や人気ランキングによらない大学選びの情報を提供するため、読売新聞が実施した第9回「大学の實力」調査の結果をまとめた「大学の實力2017(A4判カラー、188ページ)が中央公論新社から出版されました。

全国の国公立約750大学(募集停止、通信制のみの大学などを除く)に今春、調査書を送り、91%に当たる682大学の回答を得ました。学部ごとに、4年間(医・歯学部などは6年間)で卒業した学生の比率「卒業率」や退学率、就職・進学状況、4・6年間の納付金などを一覧にしました。今回は「書く力」の調査に重点を置き、書く力をつけるための授業科目、レポート回数のほか、学長コメントも掲載しています。医・歯・薬・看護学部の国家試験合格状況や支援体制も収録しました。学部選びに悩む受験生に向けたコーナーもあります。

回答の一部は、読売教育ネットワークのウェブサイトで見られます。→ <http://kyoiku.yomiuri.co.jp/jitsuken/>

税別1650円。収益は、東日本大震災で被災し、被災地の大学などに進む高校生を対象にした「読売光と愛・復興支援大学等奨学金」(読売新聞後援)に寄付します。

【問い合わせ】 教育ネットワーク事務局・大学の實力担当

☎03・3217・1484



でも少なすぎても良くないなん  
て知らなかった。トラックに見  
立てたヘモグロビンが二酸化炭  
素と酸素を運んでいるという説  
明が分かりやすかった」と話し  
ていた。校内のマラソン大会で  
準優勝したこともある二村孔君  
(12)は「高山トレーニングは

できないけれど、呼吸の仕組み  
が分かったので、マラソンの練  
習にいかせると思った」と喜ん  
でいた。

同小では今年度、環境教育に  
力を入れている。今回の出前授  
業をふまえ、今後、環境につい  
て考えていく予定だ。

# 中学校英語弁論大会の入賞者3人が英国研修

昨年11月に開催された高円宮杯第67回全日本中学校英語弁論大会の上位入賞者3人が7月27日から8月9日までの2週間、三菱商事賞として英国での研修に派遣され、イギリス南部のイースト・サセックス州にあるバックスモア・プランプトン大学の英語特訓プログラムに参加した。



プランプトン大学の玄関前で仲間たちと記念撮影する3人

## バックスモア・プランプトン大学で英語の特訓

### 文法にスポーツにゲームに

訪英したのは、沖縄尚学高校附属中（那覇市）3年の英ひなこさん、関西大学高等部（大阪府高槻市）1年の渡邊太陽さん、静岡県立浜松北高校（浜松市）1年の峯松礼佳さんの3人。同大の寮でフランスや中国を始め、世界各国の生徒たちと合宿生活を送った。

3人は8歳から16歳の生徒たちと交流しながら、平日の午前中は語彙や文法など英語を学習、午後はスポーツやゲームなどのアクティビティーを行った。週末はプライベートやロンドンで課外活動に励んだ。

「いろんな国の人と友達になれてよかった」という英さんは、異なる文化の中で勉強することに最初はとまどったが、自ら主体的に話しかけるようにしたという。「語彙力もつと必要だと痛感した」ので、今後はディスカッションなど即座に発言が求められる場面でも対応できるよう努力し、いずれは海外と日本をつなぐ仕事をしたいと抱負を語った。

渡邊さんは「最初は海外の参

加者の積極性や独特ななまりに苦戦した」という。しかし、笑顔で話しかけてくる友人たちのおかげで次第にアクティビティーを楽しめるようになった。「伝えたい」という気持ちを強く持ち、勇気を持って話す心構えは、どの言語を使う上でも重要だと気づき、とてもいい機会になった」と話した。

### 「モチベーションが上がった」

峯松さんは「日本の文化を他の参加者に紹介することでコミュニケーションを円滑にとることができるよう工夫した」という。日本のお菓子や文房具に他国出身の参加者は興味津々だったそうだ。異なる文化や背景を持つ生徒たちが集まり、その中で異文化理解を進めるためには自国の文化を学ぶことが重要だと感じた。また、参加者の中には英語を第二言語としてではなく、第三、四言語として学んでいるのに、自分よりも流暢に話しているのを目の当たりにし、「ますます英語学習に対するモチベーションが上がった」という。プランプトン大での特訓を通



欧州三菱商事のオフィスを訪問

して、3人はこれからの英語学習を進めていく上での課題として、ともに「語彙力」を挙げ、帰国後は日常生活やより実用的な場面で用いられる単語を覚えることに取り組みたいと語っていた。また帰国前にはロンドンにある読売新聞欧州総局や欧州三菱商事を訪問した。欧州三菱商事ではジュリー・ロジャーズ取締役の案内でオフィスを見学、そこで働く日本人スタッフを紹介してもらった。

3人は研修を振り返って、具体的に自分の今後を見つめ直すきっかけになったといい、これから自分の将来の目標を達成するために、学校生活や課外活動にもさらに積極的に取り組んでいきたいと前向きに話していた。（中野伸彦・日本学生協会基金運営委員長）



オリジナルのスクラップ新聞づくりに取り組む親子ら



阪田早希さんの作品「日本こんなにちがう」

子どもたちが楽しく学べる参加体験型イベント「丸の内キッズジャンボリー」(主催・東京国際フォーラム、共催・読売新聞社)が8月16~18日、東京・丸の内東京国際フォーラムで開かれ、夏休み中の小中学生や幼児でにぎわった。読売新聞は17日に「紙まき色えんぴつ」のコーナーを設け、18日は「こちら親子新聞編集室」と題して、新聞から記事や写真を切り抜いて、世界に一つだけのオリジナル新聞を作る教室を開催した。

## 「丸の内キッズジャンボリー」で新聞体験

親子でオリジナルのスクラップ新聞を制作

「新聞編集室」の会場には、事前に申し込んだ親子ら41組、100人以上が集まった。

教育ネットワーク事務局の保井隆之記者がデスクとなつて、まず新聞について説明。新聞には様々な分野の記事や広告が載っていること、大勢の記者が日々取材に走り回り、わかりやすく正確に伝えるため、編集会議を開き、見出しやレイアウトに工夫していることなどを、時にはクイズをまじえながら伝えた。

続いて、親子新聞の編集のコツを指導。「気になる記事や目に留まった写真をまず10個ほど切り抜いて」。記事が集まったら貼る位置を決めながら、共通のテーマを見つけ見出しを考える。「感想や自分の意見を書き加えてみていいね」とアドバースした。

会場には、過去1か月ほどの朝刊や夕刊が山積み。読売KODOMO新聞や読売中高生新聞も用意された。

これらを材料に、女子五輪選

手の活躍に焦点を当てた「女たちのオリンピック」や、野球をテーマにした「プロ野球も甲子園も熱く」など、工夫とオリジナリティーにあふれた作品が数多くできあがった。

最後に数人が前に出て発表。天皇陛下がビデオメッセージを公表された記事などを集めた作品の見出しは「無理しないでね・天皇陛下」。会場から感心の声が上がった。

東京都品川区の小学6年、阪田早希さん(12)は、方言の特集や、地方の特産品や料理の図を見つけて出して「日本こんなにちがう」とまとめた。「京都出身の父が時々関西弁を話すので、興味があった。用紙の中に入るようにレイアウトするのが難しかった」と話していた。

新聞丸めて色鉛筆づくりに挑戦

「紙まき色えんぴつ」は幼児から小学生まで楽しめるイベント。5色の色鉛筆の芯と使いやすいくさにカットされた読売KODOMO新聞が詰め合わせであるキットを全員が受け取ると、説明を聞く間もどかしそ



紙まき色えんぴつ作りを体験する参加者

うに、早速えんぴつ作り挑戦しはじめた。芯を紙で巻き込んでいくにあたっては、のりをたっぷりつけることと、ていねいにきつちりと巻くことがポイント。できあがると、KODOMO新聞のページ上部のラインが、ちょうどえんぴつのデザインのように収まり、「かっこいい」と喜ぶ子も。東京都北区の小学3年、井上結心さん(9)は、「芯がえんぴつの形になっていくのが面白い」ときれいに仕上がった1本を手に微笑んだ。母親の直美さんは、キッズジャンボリーに3年前から毎年来ていそうで、「家ではなかなかできない体験をさせてもらえるのでありがたいです」と話していた。

# 海外で学ぶ・リレーエッセー②1 米コルビー大学「コルビー、オックスフォードで学んだ経済学以外のこと」

県立静岡高校卒、米コルビー大3年（執筆時）

松浦隆之介さん



コルビー大国際料理祭の松浦さん(左端)=本人提供



## 米コルビー大学

米メイン州にある1813年創立の4年制私大。米国では12番目に古いリベラルアーツ・カレッジで、学生総数は1850人。米国内のほぼ全州出身の学生と70か国以上からの留学生がいる。

静岡県で過ごした高校時代、多様な学生たち、献身的な教授たち、そして生徒主導の教室と強い共同体意識があるから、米国のリベラルアーツ・カレッジが自分には理想的だ、と想像していた。そんな利点がコルビー大学にはある。

米メイン州にあるこの大学では、留学生の出身国が70か国以上に及び、キャンパスの留学生の存在がコルビー共同体を豊かにしている。

なものにしている。経済学を専攻する私と友人が、大食堂で様々な国際政治や文化の問題で2時間以上も議論するのは珍しいことではない。コルビー大で出会ったどの教授も学生に教えることが好きで、学問のこと、非学問的なことを熱心に教えてくれる。

しかしながら、私の専攻科目がコルビーでは最も人気が高いこともあり、第2学年の理論の教科ですら通常35人以上の学生がいる。これだけ教室が込み合っている、いきおい、講義形式の授業になることは避けられず、受身な態度の学生も出てくる。実は、私もこんな大教室の授業にだんだんと慣れてしま

い、積極的でなくなっていく傾向にあった。こうした無気力の殻を破り、知的な挑戦をする必要を感じ、個別指導制度がある英国のオックスフォード大学で学んでみる決意をした。個別指導は、一般に1人から3人の学生と1人の教官が、週に1回過ごす学生中心の学びの場だから、理想的な教育が得られると期待したのだ。

個別指導は密度が高く、厳しいものだったが、別に不思議ではない。どの個別指導の場でも、指導教官が教授であれ、博士課程在学の学生であれ、講義

を私が完全に理解したかどうか、テストされる。前期期のある指導教官からは、どの個別授業でも自分の勉強の成果を見せるように言われた。講義形式の授業に慣れていたので、最初の2、3回は個別学習で自分の宿題を見せることにためらいがあった。でも、こうした当惑が成長の種になり、授業に積極的に取り組むことで科目の内容の理解を深めることができる、ということがわかった。つまり、経済学以上のことも学んでいたことになったのだ。9月にはコルビー大に戻る。二つの大学の経験を踏まえ、現在は米国の大学で経済学博士課程への進学を計画している。

（会報編集部抄訳「The Japan News」2016年3月25日）

海外留学を目指す高校生に進学支援を行っているNPO法人「留学フェロシップ」のメンバーが、海外のキャンパスライフをリレー連載します。留学フェロシップの詳細はウェブサイト(<http://ryu-fellow.org>)へ。

英語の原文は <http://the-japan-news.com/news/article/0002913130> でお読みいただけます。